

教育相談は特別なものではありません。それぞれの教師が子ども一人一人に対して、あらゆる教育の場で行うものです。特に学級担任が行う教育相談の目的は「**安心で安全な学級**」「**温かい空気で満たされている学級**」を基盤とし、一人一人に寄り添うことで、子どもの心の成長や発達につながるように支援することです。

子どもの話を、十分に聞いていますか？

子どもから出てくる思いは様々であり、教師は、普段思ってもみなかった子どもの本音と出会います。そんな子どもの思いや本音に対し、教師が子どもの話をさえぎって話したり、結論を出すことを急いだりしないよう心がけ、一つ一つ丁寧に子どもの思いを受け取っていききたいものです。

時には、感情をあらわにし、涙したり、腹を立てたりしている子どもの話を聞く場面もあるかと思います。そんな姿に隠れている子どもの本当の気持ちは、「**自分を大切にされたい**」という感情です。当然、事実に対し聞き取りをしたり、指導したりすることはありますが、まずは、教師がその子どもなりの気持ちを十分受けとめ、子どもの心を開くことが大切です。

子どもが話しやすい状況を作ってみませんか？



Point !

子どもの気持ちを一つ一つ丁寧に受け取る！

- ①話しやすい場所、座席で ②じっくり待つ ③子ども目線で警戒心を解きながら ④共感して聞く

話を聞いてもらうと、自分のことを理解してもらえた、尊重してもらえた、関心を向けてもらえたと感じ、その人に対し好感をもつとともに、信頼感を抱くようになります。教師が子どもの声に耳を傾け、思いを受けとめることで、教師と子どもとの関係性が深まります。

聞いているつもりになっている教師も多いかと思います。「**子どもの話を最後までとにかく聞く**」のみにして、助言は次回の相談の時に行うようにするなどしてはいかがでしょうか。

保護者の方も、子どもの気持ちを丁寧に受け取る対話を、ぜひ大切にしてみてくださいね。